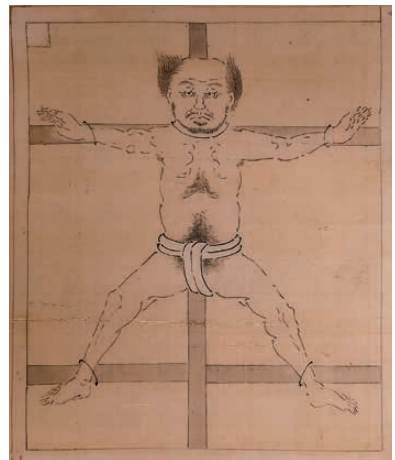


今なお引き継がれる郷土の英雄

烈士 鳥居強右衛門

新城市立鳳来中部小学校長 白井 秀明



「鳥居勝商磔殺之図」新城市指定文化財 画像提供 新城市長篠城址史跡保存館

現在東京大学史料編纂所に残っているものである。この旗指物の存在がその後、強右衛門が世に知れ渡る大きな要因ともなった。

強右衛門の生い立ちと合戦後

強右衛門は、1540年、三河国市田村（現豊川市市田町）の農家に生まれた。生誕地では「八幡様のお祭り」で草相撲があり、これを見ていた一人の武士が強右衛門に眼をつけ、見込みがあるというので、作手の奥平氏の家来に取り立てた。」という伝承がある。

成人した強右衛門は、奥平貞能に仕えていたが、貞昌が長篠城の城主となった折、長篠城に移った。そして、武田との戦いに臨むことになった。

長篠の戦の後、強右衛門の遺骸は有海新昌寺に葬られた。6月16日に本葬が営まれ五輪塔が建てられた。その後1603年、墓は作手の甘泉寺に移転され、新昌寺の墓は荒廃していたが、長篠村の有志らにより、1763年に石碑を立て一大供養を行った。

鳥居家の子孫については左上の略系図のように本家の家系が明らかになっている。本家の子孫は奥平信昌（貞昌）に続き、その四男松平忠明に仕えるなどし、幕末まで藩の重職を歴任したという。また、強右衛門の二男から

は、決戦場のある新城市内の東郷地区の小学校とのガイド交流が行われ、さらに、強右衛門のつながりで、生誕地市田の豊川市八南小学校との授業交流も行われた。

おわりに

強右衛門が引き付けるものは何か。地元郷土史家で長篠城址史跡保存館初代館長の丸山彰の著書「烈士鳥居強右衛門とその子孫」（1973年発行）のまえがきには、次のように記されている。

「（略）援軍は来るぞと、真実のことを叫んで5月16日遂に磔になった。強右衛門が表面に立って活動したのは、実にこの3日間であった。雑兵という低い身分の彼が36歳までに練り鍛えた精神力と体力とはこの3日間に燃焼し尽くし、そして日本の歴史に大きな足跡を残した。強右衛門が有海原頭の露と消えてから既に400年、その烈々たる魂、今も尚、訪れる人々に深い感動を与えている。」

主な参考文献と関係施設案内

- 「烈士鳥居強右衛門とその子孫」丸山彰著
「鳥居強右衛門 語り継がれる武士の魂」金子拓著
※長篠城址史跡保存館



行動についての新しい解釈とも重なり、大変注目された。

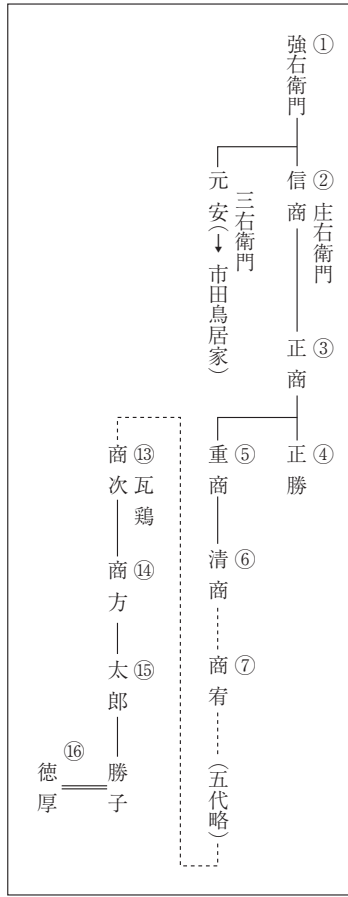
長篠城をめぐる戦いと強右衛門

1575年5月、奥平貞昌が守る長篠城は、勝頼率いる武田軍の攻撃を受けて落城寸前であった。軍議が開かれ岡崎城の家康へ援軍を要請することになった。この時、貞昌の家臣であった強右衛門は自ら進んでこの役目を引き受けた。14日の夜、強右衛門は密かに城内から忍び出て寒狭川に出た。敵の監視や川中の鳴子の網をかくぐり、豊川を約1里ほど泳ぎ下り、広瀬で上陸した。その後、雁峰山での上り、作手を通り、岡崎に向かった。15日、岡崎についた強右衛門は、岡崎に到着した信長と家康に奥平貞能（貞昌の父）を介して長篠城の情勢を伝えた。



長篠城址入口の看板

鳥居家略系図(金子拓著「鳥居強右衛門 語り継がれる武士の魂」より)



続く、市田の家系も伝わっており、現在もその末裔が在住している。

広がる烈士の姿と地元の顕彰

江戸時代を通じて、幾多の戦記に強右衛門の活躍ぶりが記されてきた。明治期には歌舞伎で演じられ、錦絵にもその雄姿が描かれた。さらに1910年には国定教科書「尋常小学読本」に掲載され、全国の子どもたちがその名を知ることとなる。その後、小説や映画で表されてきたのは周知のことである。

前述の墓がある新昌寺では墓の再建後、鳥居祭りとして供養が続けられ、近年は地元小学生が強右衛門の歌や古戦場の歌を披露している。長篠城址では1925年に鳥居強右衛門勝商長篠戦役陣歿将士350年祭が盛大に行われた。その後、1966年より「長篠合戦のほりまつり」が開催され、強右

衛門に扮した武者が他の武将とともに地域を巡り入場したり、強右衛門が走った道を参加者が走り抜けたり、強右衛門の絶叫にちなんだ「大声コンテスト」が行われたりすることもあった。その流れは近年の地域の催しでも採用されている。強右衛門の生まれた豊川の市田においては大正時代に強右衛門の顕彰組織として「鳥居会」が発足し、1914年に強右衛門の顕彰碑が赤塚山に建てられた。その理由は、日露戦争で市田地区から出征した兵士に戦死者が出なかつたことを強右衛門の御加護のお陰と言われたからとのことである。そして、いくつかの石碑や顕彰碑が建立された。鳥居家の菩提寺松永寺には石碑に加え、強右衛門の木造も制作され、安置された。現在も伊知多神社で5月に強右衛門を偲ぶ鳥居祭が営まれている。市田町内会が主催し、鳥居家の末



長篠城址での歴史ガイド

裔や町民が参加し、子どもたちが強右衛門にかかわる歌を歌ったり剣道の型を奉納したりしている。

強右衛門を通してつながる 学校教育

新城市内では学習発表会などで戦国時代の学習劇を演じる小学校が多くみられ、強右衛門が登場する場面もよく披露されてきた。

地元鳳来中部小学校ではこの10年ほど、長篠合戦について歴史ガイド活動を行っている。内容ごとにグループに分かれてガイドをしているが、強右衛門は人気のグループだ。のほりまつりの来場者や社会科見学で訪れる他校の子どもたちに、自分たちが調べたことを自信をもって説明している。今年度